

道 徳

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	道徳 101 201 301 401 501 601	AB 998	平成31年
11	学校図書	学 図	道徳 102・103 202・203 302・303 402・403 502・503 602・603	AB 1,112	
17	教育出版	教 出◆	道徳 104 204 304 404 504 604	AB 924	
38	光村図書	光 村◆	道徳 105 205 305 405 505 605	B5変型 1,118	
116	日本文教出版	日 文◆	道徳 106・107 206・207 306・307 406・407 506・507 606・607	AB 1,328	
208	光文書院	光 文◆	道徳 108 208 308 408 508 608	A4変型 1,076	
224	学研教育みらい	学 研◆	道徳 109 209 309 409 509 609	A4 928	
232	廣済堂あかつき	廣あかつき◆	道徳 110・111 210・211 310・311 410・411 510・511 610・611	AB 1,144	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」(学校教育法第34条第2項に規定する教材)の発行予定があることを示しています。

校 種	聴覚障害特別支援学校	肢体不自由・病弱特別支援学校	
児童の実態	・両耳の聴力レベルがおおむね60デシベル以上で、補聴器等の使用によっても通常の話声を解することが不可能又は著しく困難な程度である。	・肢体不自由の状態が補装具の使用によっても歩行、筆記等日常生活における基本的な動作が不可能又は困難な程度である。 ・慢性の疾患等の状態が継続して医療又は生活規制を必要とする程度である。	
観点			
内容の 取扱い 等	1 障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について	・身近な題材について、体験を通して考えるなど、学習活動が工夫できるもの。 ・聴覚障害の理解に関わる記述があるもの。	・学校生活などでイメージしやすい身近な教材を取り上げているもの。 ・肢体不自由や病弱の理解に関わる記述があるもの。
	2 障害への配慮を要する内容等について	・言葉や音を聞き取る活動が含まれ、学習活動に困難が想定されるもの。 ・インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの。 ・方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの。	・視機能の障害や上肢の操作性等から学習活動に困難が想定されるもの。 ・病気の治療などによる運動制限から、経験しにくい体験的活動を扱った教材が取り上げられているもの。 ・各学年の生徒数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの。
構成上の工夫	・聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明しているもの。	・通院等による学習期間の空白を補えるように、学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されているもの。 ・外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの。 ・ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの。	

小学部 道徳(聴覚障害特別支援学校)

発行者		東書	学図	教出
内 容	「主として自分自身に関すること」を扱っている教材数	59	58	57
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている教材数	48	46	45 最小
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている教材数	65	69	69
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている教材数	43	36	38
	情報モラルや現代的な課題を扱っている教材数	24 最小	53	42
	先人の伝記等が取り上げられている教材数	17 最小	57 最多	53
	役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習が扱われている数	16	18	62 最多
聴覚障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①身近な題材について、体験を通して考えるなど、学習活動が工夫できるもの。 ②聴覚障害の理解に関わる記述があるもの。	33箇所	38箇所	40箇所	
	①1年「みんなのボール」では、休み時間の後片付けの場面を取り上げており、自分の日常体験を基に学習することができる。(P78) ②3年「耳の聞こえないお母さんへ」では、聴覚障害者との意思疎通に関する内容を取り上げている。(P77)	①2年「ゲームをしていたつもりなのに」では、日常生活に密接なスマートフォンの、利用上の問題を漫画形式で示してある。(P72) ②なし	①1年「なんていったらよいかのな」では、登下校や休み時間等、学校生活に身近な場面を取り上げ、場面に応じた言葉を考えさせる工夫がされている。(P64) ②なし	
	聴覚障害への配慮を要する内容等について ①言葉や音を聞き取る活動が含まれ、学習活動に困難が想定されるもの。 ②インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの。 ③方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの。	11箇所 ①4年「ぼくらだってオーケストラ」では、楽器(リコーダー)の奏法や音階に関する記述があるため、取り扱う際に配慮を要する。(P83) ②3年「なかよだから」では、会話文で物語が進行する箇所があり、支援が必要である。(P71) ③5年「ひさの星」では、方言で表現されている箇所があるため、読解の際に説明が必要である。(P34)	13箇所 ①3年「めざまし時計」では、時計の音や母親の声で起床するという内容があり、取り扱う際に配慮を要する。(P6) ②5年「ゴールデンルール」では、会話形式で展開するため、発言者が誰であるかを示すなどの支援が必要である。(P17) ③4年「泣いた赤おに」では、青おにの手紙が片仮名で書かれているため、読解の際に説明が必要である。(P35)	13箇所 ①2年「教えていいのかな」では、電話の受け答えを考えさせるロールプレイが取り上げられており、取り扱う際に配慮を要する。(P37) ②なし ③3年「花さき山」では、本文が主人公の独特の表現の語りが進められ、また方言も用いられているため、読解の際に説明が必要である。(P92)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 20ポイント 6年最後 13ポイント	1年最初 20ポイント 6年最後 15ポイント	1年最初 19ポイント 6年最後 14ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 20文字×11行 6年最後 41文字×19行	1年最初 32文字×15行 6年最後 42文字×20行	1年最初 29文字×13行 6年最後 40文字×20行
	欄外の文字の大きさ	1年 10ポイント 6年 9.5ポイント	1年 なし 6年 9ポイント	1年 13ポイント 6年 8.5ポイント
	ふりがな	未習得及び難読漢字有	未習得及び難読漢字有	未習得及び難読漢字有
	障害の状態に応じた事項、その他 ①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明しているもの。	①4年「雨のバスでいりゅう所」では、本文に記述している登場人物の表情などをイラストで表現している。(P150) ・6年「世界のために働く人たち」では、国境なき医師団の救援活動の様子を写真で示してある。(P121)	①5年「ごちそうの向こうに」では、バイキングでのマナーが漫画形式で示してある。(P10) ・1年「『ありがとう』を見つけよう」では、学校や町中の様子を、イラストを用いて見開きで示してある。(P54、55)	①4年「十才のプレゼント」では、本文に記述している夜明けの山や空の情景を、写真で示してある。(P26) ・5年「よさこいソーラン祭り」では、本文に出てくる場所や物事を写真で示してある。(P26)
参考	国旗・国歌の扱い	なし	あり	あり
	防災や自然災害の扱い	なし	あり	あり
	性差と家族についての扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし	なし

小学部 道徳(聴覚障害特別支援学校)

発行者		光村	日文	光文
内 容	「主として自分自身に関すること」を扱っている教材数	55 最小	59	58
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている教材数	52	52	59 最多
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている教材数	69	78	79 最多
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている教材数	33	38	44 最多
	情報モラルや現代的な課題を扱っている教材数	51	96 最多	57
	先人の伝記等が取り上げられている教材数	22	27	24
	役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習が扱われている数	22	14	7 最小
内 容	聴覚障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①身近な題材について、体験を通して考えるなど、学習活動が工夫できるもの。 ②聴覚障害の理解に関わる記述があるもの。	43箇所 ①3年「係の仕事に取り組むときに」では、学校生活で身近な活動である係活動を取り上げている。(P76) ②4年「見えないしやがいに気づくこと」では、見えない障害の例として聴覚障害を取り上げ、ヘルプマークが紹介されている。(P118)	22箇所 ①1年「どんなあいさつをしますか」では、様々な場面でのあいさつについて、役割を分担して学習する活動を示してある。(P72) ②5年「ヘレンと共に」では、指話法や読唇術など、聴覚障害の理解に関わる記述がある。(P98)	38箇所 ①4年「自分たちにできるエコ活動」では、日常生活に密接なごみ問題を、街で見るとの掲示を示しながら取り扱っている。(P48) ②なし
	聴覚障害への配慮を要する内容等について ①言葉や音を聞き取る活動が含まれ、学習活動に困難が想定されるもの。 ②インタビュー等、会話が主体となる活動があり、学習の際に特別な支援が必要であるもの。 ③方言や特徴的な言い回し等を多用し、読解の際に説明が必要であるもの。	19箇所 ①2年「お月さまとコロ」では、主人公の昆虫の気持ちを鳴き声で表現している場面があり、取り扱う際に配慮を要する。(P84) ②3年「学校のぶどう」では、会話形式で展開する場面があり、発言者が誰であるかを示すなどの支援が必要である。(P151) ③4年「『正直』五十円分」では、会話の表現に方言が用いられており、読解の際に説明が必要である。(P76)	28箇所 ①2年「れいぎについて考えてみよう。」では、電話をかける活動が取り上げられており、取り扱う際に配慮を要する。(P30) ②4年「ええことするのは、ええもんや！」では、会話形式で展開する場面があり、発言者が誰であるかを示すなどの支援が必要である。(P57) ③3年「助かった命」では、擬音語や声の描写について、説明が必要である。(P128)	17箇所 ①なし ②なし ③6年「広村堤防の清掃ボランティア」では、方言が多用されており、読解の際に説明が必要である。(P66)
	本文の文字の大きさ	1年最初 20ポイント 6年最後 14ポイント	1年最初 20ポイント 6年最後 14ポイント	1年最初 17ポイント 6年最後 14ポイント
1ページの基本的な文字数	1年最初 30文字×13行 6年最後 44文字×16行	1年最初 30文字×14行 6年最後 42文字×19行	1年最初 33文字×17行 6年最後 41文字×17行	
欄外の文字の大きさ	1年 9.5ポイント 6年 8.5ポイント	1年 10.5ポイント 6年 10.5ポイント	1年 13ポイント 6年 10ポイント	
構成上の工夫	ふりがな	未習得及び難読漢字有	1年は漢字・カタカナ全て、2年以上は未習得及び難読漢字有	1年は漢字・カタカナ全て、2・3年は漢字全て、4年以上は未習得及び難読漢字有
	障害の状態に応じた事項、その他 ①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明しているもの。	①3年「友だちとのかかわりについて考えよう」では、学校生活での、友達との関わりがイラストで表現してある。(P33) ・2年「ぶらんこ」では、本文と対応する挿し絵がページの上下に示してある。(P28)	①3年「ダブルブッキング」では、話の内容が漫画形式で示してある。(P144) ・6年「自分を守るかって？」では、説明文の内容をイラストで示してある。(P132)	①3年「心の優先席」では、意見を述べている人物のイラスト、意見の内容とそれを表すイラストが一つの枠で囲んで示してある。(P34) ・2年「オリンピックとパラリンピックのはた」では、会話文の登場人物ごとの台詞の前に、発言者の顔がイラストで示してある。(P52)
参考	国旗・国歌の扱い	なし	あり	なし
	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	性差と家族についての扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし	なし

小学部 道徳(聴覚障害特別支援学校)

発行者		学研	廣あかつき
内 容	「主として自分自身に関すること」を扱っている教材数	59	64 最多
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている教材数	52	50
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている教材数	58 最小	63
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている教材数	40	32 最小
	情報モラルや現代的な課題を扱っている教材数	65	49
	先人の伝記等が取り上げられている教材数	52	37
	役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習が扱われている数	12	18
聴覚障害のある児童が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について	50箇所	36箇所	
	①1年「はりきりいちねんせい」では、学校生活での正しい行動や振る舞いを考える活動が取り上げられている。(P14) ②6年「温かい行為が生まれるとき」では、聴覚障害者や視覚障害者の事例が取り上げられている。(P38、39)	①4年「一まいの写真から」では、日常生活に身近な電車の駅の写真が示しており、何をしている場面が考えさせる活動が取り上げられている。(P65) ②5年「ぼくの名前よんで」では、主人公の両親が聴覚及び言語障害者である題材が取り上げられている。(P71)	
聴覚障害への配慮を要する内容等について	29箇所	11箇所	
	①6年「古きよき心」では、本文に引用されている随筆に、聴覚障害により理解が難しい表現があり、取り扱う際に配慮を要する。(P41) ②2年「青いアルバム」では、会話形式で展開する場面があり、発言者が誰であるかを示すなどの支援が必要である。(P94) ③2年「おらもいしやになる」では、会話の表現に方言が用いられており、読解の際に説明が必要である。(P80)	①1年「とくとくとく」では、胸に耳を当てて心臓の音を聞く場面があり、取り扱う際に配慮を要する。(P86) ②5年「妹のカード」では、会話形式で展開する場面があり、発言者が誰であるかを示すなどの支援が必要である。(P81) ③1年「あぶら山」では、文末に独特な表現が用いられているため、説明が必要である。(P94)	
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 22ポイント 6年最後 15ポイント	1年最初 20ポイント 6年最後 14ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 34文字×14行 6年最後 40文字×19行	1年最初 29文字×14行 6年最後 36文字×20行
	欄外の文字の大きさ	1年 なし 6年 7.5ポイント	1年 なし 6年 8ポイント
	ふりがな	未習得及び難読漢字有	未習得及び難読漢字有
障害の状態に応じた事項、その他	①聴覚の障害を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明しているもの。	①3年「みんなの学級会」では、話合いの場面が漫画形式で示してある。(P86) ・4年「友だちが泣いている」では、登場人物の顔と表情がイラストで示してある。(P60)	①2年「こんなときどうするの」では、説明文とイラストを並べて示してある。(P96) ・3年「夜ふかししたら」では、時間の経過がイラストと矢印で示してある。(P16)
参考	国旗・国歌の扱い	なし	なし
	防災や自然災害の扱い	あり	あり
	性差と家族についての扱い	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし

小学部 道徳(肢体不自由・病弱特別支援学校)

発行者		東書	学図	教出
内容	「主として自分自身に関すること」を扱っている教材数	59	58	57
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている教材数	48	46	45 最小
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている教材数	65	69	69
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている教材数	43	36	38
	情報モラルや現代的な課題を扱っている教材数	24 最小	53	42
	先人の伝記等が取り上げられている教材数	17 最小	57 最多	53
	役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習が扱われている数	16	18	62 最多
内容	肢体不自由・病弱の生徒が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①学校生活などでイメージしやすい身近な教材を取り上げているもの。 ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述があるもの。	30箇所 ①2年「ほく」では、自分の好きなもの等、自分に関することを取り上げている。(P77) ②5年「ノンステップバスでのできごと」では、車いすでのバス乗車について取り扱っている。(P41)	54箇所 ①2年「いただきます」では、給食の調理工程や献立を取り上げている。(P84) ②3年「パラリンピックを知ろう」では、障害者スポーツの歴史や競技についての記述がある。(P117)	50箇所 ①4年「世界の子どもたちのために」では、給食や朝ご飯、夕ご飯のことを取り上げている。(P114) ②6年「人生を変えるのは自分」では、骨肉腫により義足を使ってパラリンピックを目指す選手について取り扱っている。(P6)
	肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①視機能の障害や上肢の操作性等から学習活動に困難が想定されるもの。 ②病気の治療などによる運動制限から、経験しにくい体験的活動を扱った教材が取り上げられているもの。 ③各学年の生徒数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの。	77箇所 ①4年「紙しばいをつくって発表しよう」では、ページをめくり返して作業する活動があり、困難が想定される。(P96) ②3年「いいち、にいっ、いいち、にいっ」では、運動会の種目で二人三脚を題材として取り上げている。(P33) ③6年「修学旅行の夜」では、修学旅行の部屋で集団でおしゃべりをする場面が取り上げられている。(P76)	128箇所 ①1年「十四ひきのお月見」では、挿絵全体の色調が単色で示しており、困難が想定される。(P36) ②6年「思いやりのかたち」では、電車の座席を譲る体験を取り扱っている。(P32) ③5年「みんなで『ありがとう六年生！』」では、グループになって活動する場面を取り上げている。(P133)	113箇所 ①1年「生きているじぶん」では、体の部位に触れる活動を取り扱っており、学習に困難が想定される。(P46) ②3年「ドッジボール大会」では、ドッジボールを題材として取り上げている。(P79) ③5年「森の絵」では、クラスでの劇の役割分担や劇発表の場面を取り上げている。(P70)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 20ポイント 6年最後 13ポイント	1年最初 20ポイント 6年最後 15ポイント	1年最初 19ポイント 6年最後 14ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 20文字×11行 6年最後 41文字×19行	1年最初 32文字×15行 6年最後 42文字×20行	1年最初 29文字×13行 6年最後 40文字×20行
	欄外の文字の大きさ	1年 10ポイント 6年 9.5ポイント	1年 なし 6年 9ポイント	1年 13ポイント 6年 8.5ポイント
	ふりがな	未習得及び難読漢字有	未習得及び難読漢字有	未習得及び難読漢字有
	障害の状態に応じた事項、その他 ①通院等による学習期間の空白を補えるように、学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されているもの。 ②外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの。 ③ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの。	①6年「タマソ川」では、単元の最後に枠囲みで「考えるステップ」として、学習をまとめる活動が示してある。(P141) ②5年「ペンギンは水の中を飛ぶ鳥だ」では、ペンギンの様々な生態を写真で説明している。(P60) ③4年「ほくらだってオーケストラ」では、単元のまとめとして、見開きで、友達に「ありがとう」の気持ちを伝える活動が示してある。(P87)	①全ての単元において別冊「まなび」で学習をまとめられるようになっている。(1年別冊P7など) ②4年「人とシカとのきょうぞんをめざして」では、写真やグラフ、新聞記事を用いて、説明されている。(P86) ③2年「ありとときりぎりす」では、題材の文章が見開きで構成されている。(P78、79)	①2年「あいさつ」では、枠囲みで「やってみよう」のページがあり、学習をまとめられるようになっている。(P15) ②5年「横浜港のガンマンの思い」では、クレーンやそれを操作する人の様子を写真を用いて説明している。(P64) ③2年「気もちのよいあいさつ」では、起床から就寝までの生活の流れを、イラストを用いて見開きで示してある。(P10、11)
参考	国旗・国歌の扱い	なし	あり	あり
	防災や自然災害の扱い	なし	あり	あり
	性差と家族についての扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし	なし

小学部 道徳(肢体不自由・病弱特別支援学校)

発行者		光村	日文	光文
内容	「主として自分自身に関すること」を扱っている教材数	55 最小	59	58
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている教材数	52	52	59 最多
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている教材数	69	78	79 最多
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている教材数	33	38	44 最多
	情報モラルや現代的な課題を扱っている教材数	51	96 最多	57
	先人の伝記等が取り上げられている教材数	22	27	24
	役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習が扱われている数	22	14	7 最小
内容	肢体不自由・病弱の生徒が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①学校生活などでイメージしやすい身近な教材を取り上げているもの。 ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述があるもの。	23箇所 ①2年「どうしてうまくいかないのかな」では、学校の授業での悩みを取り上げている。(P94) ②4年「みんな、待っているよ」では、題材に院内学級を取り扱っている。(P50)	22箇所 ①2年「どうしてないてるの」では、授業で使用する教科書や鉛筆、消しゴムを題材に取り扱っている。(P118) ②1年「オリンピック・パラリンピック」では、車いす陸上競技を取り扱っている。(P44)	64箇所 ①1年「あいさつでげんきに」では、一日に使う様々な挨拶について取り扱っている。(P12、13) ②5年「変えたもの・変えなかったもの」では、入院生活やけがを克服しながら、自分を伸ばすプロ野球選手についての内容を取り扱っている。(P92)
	肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①視機能の障害や上肢の操作性等から学習活動に困難が想定されるもの。 ②病気の治療などによる運動制限から、経験しにくい体験的活動を扱った教材が取り上げられているもの。 ③各学年の生徒数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの。	100箇所 ①6年「まどさんからの手紙」では、背景のイラストに文字を重ねて示しており、配慮を要する。(P12) ②2年「ぼくのサッカーシューズ」では、サッカーが題材として取り上げられている。(P44) ③5年「クール・ボランティア」では、グループで話し合う場面を取り上げている。(P120)	94箇所 ①6年「ぼくのお茶体験」では、茶道について取り上げられており、正座等の作法について、取扱いに配慮を要する。(P36) ②4年「ほんとうに上手な乗り方とは」では、自転車の運転を題材として取り上げており、配慮を要する。(P71) ③3年「学級しようかい」では、長縄跳びに取り組む学級を題材に取り上げている。(P60)	106箇所 ①1年「まなびのあしあと」では、1ページに12回分の授業記録を記入する活動が取り上げられており、配慮を要する。(P153) ②4年「さか上がり」では、鉄棒を使った運動の逆上がりが題材として取り上げられている。(P28) ③3年「きょうりょくクラス」では、話し合いながら皆で協力して一つの絵を描く場面を取り上げている。(P132)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 20ポイント 6年最後 14ポイント	1年最初 20ポイント 6年最後 14ポイント	1年最初 17ポイント 6年最後 14ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 30文字×13行 6年最後 44文字×16行	1年最初 30文字×14行 6年最後 42文字×19行	1年最初 33文字×17行 6年最後 41文字×17行
	欄外の文字の大きさ	1年 9.5ポイント 6年 8.5ポイント	1年 10.5ポイント 6年 10.5ポイント	1年 13ポイント 6年 10ポイント
	ふりがな	未習得及び難読漢字有	1年は漢字・カタカナ全て、2年以上は未習得及び難読漢字有	1年は漢字・カタカナ全て、2・3年は漢字全て、4年以上は未習得及び難読漢字有
	障害の状態に応じた事項、その他 ①通院等による学習期間の空白を補えるように、学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されているもの。 ②外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの。 ③ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの。	①4年「弟のふろ入れ」では、枠囲みで「考えよう・話し合おう」のページがあり、学習をまとめられるようになっている。(P110) ②2年「おせちのみみつ」では、様々なおせち料理が写真で説明されている。(P139) ③1年「みんなじょうず」では、見開きで題材の文とイラストや、考えたり話し合ったりするポイントを枠囲みで示してある。(P14)	①全ての単元のまとめとして、枠囲みで学習のポイントが記されている。(4年P11など) ②5年「ひとふみ十年」では、高山植物や地名について写真や地図で説明されている。(P48) ③3年「おしゃべりすごろく」では、話し合うテーマをすごろく形式で取り上げ、見開きで示してある。(P10、11)	①全ての単元で、欄外に枠囲みで考えるポイントやまとめが示してある。(1年P10など) ②5年「世界文化遺産」では、日本各地の世界文化遺産が写真を用いて説明されている。(P84) ③1年「あいさつでげんきに」では、時間帯別の挨拶をイラストを用いて、見開きで示してある。(P12、13)
参考	国旗・国歌の扱い	なし	あり	なし
	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり
	性差と家族についての扱い	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし	なし

小学部 道徳(肢体不自由・病弱特別支援学校)

発行者		学研	廣あかつき
内容	「主として自分自身に関すること」を扱っている教材数	59	64 最多
	「主として人との関わりに関すること」を扱っている教材数	52	50
	「主として集団や社会との関わりに関すること」を扱っている教材数	58 最小	63
	「主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を扱っている教材数	40	32 最小
	情報モラルや現代的な課題を扱っている教材数	65	49
	先人の伝記等が取り上げられている教材数	52	37
	役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習が扱われている数	12	18
内容	肢体不自由・病弱の生徒が興味・関心をもって取り組むことができる教材等について ①学校生活などでイメージしやすい身近な教材を取り上げているもの。 ②肢体不自由や病弱の理解に関わる記述があるもの。	38箇所 ①6年「会話のゆくえ」では、スマートフォンでの会話のやり取りを取り扱っている。(P110) ②5年「UDって何だろう」では、ユニバーサルデザインやバリアフリー等のピクトグラムに関する記述がある。(P103)	47箇所 ①1年「大すぎなかぞく」では、家族のことや家庭での役割について取り扱っている。(P48) ②4年「だれもが住みよい社会に」では、バリアフリーについて取り上げている。(P129)
	肢体不自由・病弱への配慮を要する内容等について ①視機能の障害や上肢の操作性等から学習活動に困難が想定されるもの。 ②病気の治療などによる運動制限から、経験しにくい体験的活動を扱った教材が取り上げられているもの。 ③各学年の生徒数が少ないため、集団活動が含まれるなど取扱いが困難と思われる内容が取り上げられているもの。	83箇所 ①1年「はりきりいちねんせい」では、イラストに文字が重ねて表示してあるため、取扱いに配慮を要する。(P15) ②4年「クラスたいこう全員リレー」では、全員リレーを取り上げており、取扱いに配慮を要する。(P94) ③3年「みんなの学級会」では、学級会で多くの意見をまとめる活動を題材としている。(P86)	50箇所 ①3年「ふるしき」では、風呂敷を使った包み方について、取扱いに配慮を要する。(P38) ②2年「黄色いベンチ」では、ベンチに乗ったり、紙飛行機を飛ばしたりする題材を取り扱っている。(P24) ③4年「時計係」では、学級対抗のバスケットボール大会を取り上げている。(P85)
構成上の工夫	本文の文字の大きさ	1年最初 22ポイント 6年最後 15ポイント	1年最初 20ポイント 6年最後 14ポイント
	1ページの基本的な文字数	1年最初 34文字×14行 6年最後 40文字×19行	1年最初 29文字×14行 6年最後 36文字×20行
	欄外の文字の大きさ	1年 なし 6年 7.5ポイント	1年 なし 6年 8ポイント
	ふりがな	未習得及び難読漢字有	未習得及び難読漢字有
	障害の状態に応じた事項、その他 ①通院等による学習期間の空白を補えるように、学習のポイント等が大きな文字や枠囲み等で簡潔に記されているもの。 ②外出等の社会的経験の不足を補えるように、写真、図絵等で視覚的に説明されているもの。 ③ページをめくる等の動作が難しい場合があるため、見開きページで学べるようになっているもの。	①2年「おもしろいしゃになる」の「広げよう」のページでは、登場人物の生い立ちについてまとめている記述がある。(P84) ②3年「まっかな夕日」では、いろいろな雲の様子が写真で説明されている。(P58) ③1年「お正月」では、「ひろげよう」として、日本各地のお雑煮を、写真を使い、見開きで説明している。(P102、103)	①各単元の最後に学習のポイントやまとめが枠囲みで記されている。(5年P9など) ②3年「やくそくやきまりを守って」では、町中のきまり等について写真で説明されている。(P15) ③1年「みんなでつかうばしょなのに」では、公園での決まりやマナーについて、イラストを用いて見開きで示してある。(P34、35)
参考	国旗・国歌の扱い	なし	なし
	防災や自然災害の扱い	あり	あり
	性差と家族についての扱い	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり
	北朝鮮による拉致問題の扱い	なし	なし